

関大防災Day2012 ~広がれ! みんなの安全・安心! ~

◎「リレー講座・東日本大震災特別講演会」



千里山キャンパスに設置された「地震対策本部」

全学を挙げて防災に取り組んでいる関西大学では、毎年秋に各キャンパスで「関大防災Day」を実施している。今回は初めて同日時に、千里山・高槻・高槻ミューズ・堺の4キャンパスで「関大防災Day2012～広がれ! みんなの安全・安心!～」を開催した。

10月26日、学生・教職員・地域住民ら約1万人が、地震避難訓練および各種防災イベントに参加した。通信手段が遮断された際の情報収集を目的として、千里山キャンパスと各キャンパスから同時に徒歩で出発し、中間地点の場所や所要時間などを検証するミーティングポイント検証訓練や、全キャンパス同時対策本部シミュレーション訓練も初めて実施した。

千里山キャンパスでは、各キャンパスと結ぶオンライン中継で「リレー講座・東日本大震災特別講演会」を開催。本学の教員による講座のほか、岩手県大槌町総務部長の平野公三氏が「東日本大震災津波、その時、それから」と題して講演。当時の町長ら職員40人が死亡・行方不明となり、町長職務代行者として町役場の再起を最前線で支えた経験が語られた。

さらに千里山キャンパスでは、防災啓発ブースの設置、吹田市西消防署の協力による普通救命講習会、煙体験、水害時避難訓練、消火栓・消火器体験、安否確認、他大学見学者への説明会なども実施。初の試みとして、エレベーター閉じ込め救出訓練も行った。

「リレー講座・東日本大震災特別講演会」を各キャンパスにオンライン中継で配信



地震避難訓練：(左)机の下に避難する学生 (右)訓練には多数の近隣住民が参加

第32回「地方の時代」映像祭2012を開催

千里山キャンパスでグランプリ・受賞作品上映

関西大学、吹田市、日本放送協会、日本民間放送連盟、日本ケーブルテレビ連盟が共同主催する第32回「地方の時代」映像祭2012が、11月17日～22日、千里山キャンパスで開催された。

「地方の時代」映像祭は、1980年に川崎市でスタート。中央一極集中がますます進みつつあるなかで、「ともに生きる、地域の未来」というテーマを掲げる映像祭の果たす役割は重要度を増している。

応募作品は、放送局部門、ケーブルテレビ部門、市民・学生・自治体部門、高校生部門に分かれて審査され、部門ごとに優秀賞、奨励賞があり、共通してグランプリ(賞金100万円)1点が選ばれる。

今回は過去最多の計222作品の応募があり、ジャーナリストの辻一郎氏が審査。11月17日に贈賞式、グランプリ作品上映、シンポジウムが行われた。18日から22日にかけてワークショップ、受賞作品上映会、参加作品上映会などが開かれた。

グランプリ受賞作品は、放送局部門のNHKスペシャル「イ

ナサがまた吹く日～風寄せる集落に生きる～」(NHK仙台放送局)。東日本大震災で津波の大被害に遭った宮城県仙台市荒浜地区の半農半漁の集落では、春、豊漁を呼ぶ南東の風をイナサと呼び、四季折々の風と対話しながら暮らしを営んできた。被災後からイナサの風が再び吹くまでの一年を長期取材し、変わらぬ人々のつながり、自然と共にある生きざまを見つめた。

なお、関西大学社会学部の学生らによる「ぼくの風変わりなアパート」が、市民・学生・自治体部門で優秀賞を、「従姉の一時疎開」が同部門奨励賞をそれぞれ受賞した。



堺市との地域連携事業 第7回 関大笑い講



桂文枝師匠が講演 笑いの奥深さに触れる



(写真上) 六代桂文枝師匠による講演の様子

(写真下) 人間健康学部・森下伸也教授の基調講演

関西大学と堺市との地域連携事業として、「第7回関大笑い講」が10月13日、堺市教育文化センター ソフィア・堺で開催された。今回の目玉は、関西大学人間健康学部客員教授の六代桂文枝師匠の講演と、文枝門下の囃家たちによる落語寄席。700人定員の会場は、笑いを愛する堺市民らで満席となった。

まず、人間健康学部の森下伸也教授が「笑い講とは何か?」のテーマで基調講演を行った。山口県防府市に800年来伝わる神事である本家本元の「笑い講」が紹介され、それにならって来場者が一斉に大笑いを行い、笑門来福を祈願した。

六代桂文枝一門による落語寄席では、関西大学出身の桂三歩さんと桂三金さん、さらに桂三語さんが登場。師匠直伝の落語の数々が、大きな笑いを呼んだ。続いて、日本では珍しいクラウン(道化師)のみのパフォーマンスチーム、プレジャーBが観客席も巻き込みながら楽しいクラウンサーカスを披露した。

文枝師匠が現れると、一層華やかな雰囲気が漂う。「笑いはこころのビタミン剤」と題し、落語家として活動する中で実感したという心を豊かにする笑いの効用について講演。六代桂文枝襲名のいきさつ、関大生時代のお話など、次々飛び出すエピソードに、会場は終始笑いが絶えなかった。



第35回 関西大学統一学園祭 関西大学の連携自治体・団体が学園祭に結集

◎「地域の魅力アピールコーナー」を開設

関西大学では多数の自治体と連携協力協定を締結し、さまざまな連携事業を展開している。2012年の学園祭に合わせて、11月3日、4日の両日、連携協力関係にある自治体・団体が結集し、「地域の魅力アピールコーナー」を凜風館横に開設した。

地元特産品の販売や試飲・試食、観光パンフレットの配布などを行った。ゆるキャラも登場し、地域の多彩な魅力をアピールした。東日本大震災で甚大な津波被害を受けた岩手県大槌町のブースは、同町で活動を行う、関西大学社会的信頼システム創生センター(STEP)が運営。出展した自治体は、大阪府堺市・吹田市・高槻市・池田市・八尾市、京都府城陽市、兵庫県淡路市・丹波市、奈良県葛城市・明日香村、佐賀県武雄市、岩手県大槌町、福井県、天神橋筋商店連合会(一部は1日のみの出展)。

なお、2012年度の第35回関西大学統一学園祭は、11月1日から4日まで千里山キャンパスで開催された。広く感謝の気持ちを伝えるべく、テーマは「感謝祭 to ALL...」。お祭りムードのキャンパスを所狭しと、工夫を凝らした企画や催しが繰り広げられた。



盛り上がった「第35回 関西大学統一学園祭」

▲天神橋筋商店連合会の出店ブース
◀地元特産品が並ぶ「地域の魅力アピールコーナー」